

巻頭言	同窓会理念の共有 一翼を担う教育後援会として 再任のご挨拶	高橋 伸治 平野 泰宏	4
学長より	商経学部 商経学部の現状と今後について 政策情報学部 政策情報学部の新しい学び サービス創造学部 サービス創造学部の「3つの学び」を支える「3つの強み」 人間社会学部 社会的課題の解決にビジネスの手法で取り組む 国際教養学部 グローバル人材の育成と新型コロナウイルス流行の影響	原科 幸彦 久保 誠 朽木 量 坂井 恵 鎌田 光宣 山田 武	6 10 11 12 13 14
学部長より			
式典報告	2020年度 学位記授与式 2021年度 入学式		15 15
特集	第2期中期経営計画進捗報告 その① 第2期中期経営計画は3年目に 学生支援と環境整備領域 入試キャリア領域・入試部門 入試キャリア領域・キャリア部門	内田 茂男 榎岡 源一郎 出水 淳 川瀬 功	30 36 42 46
学園より	新型コロナウイルス感染拡大防止に対する本学の取り組み 2021年度授業開始を迎えて	大場 克美	52
退任された教員より	43年間を思いつくままに チャレンジ 好奇心からはじまる 移りゆく世の習いへ 挑戦の大切さ 「経験」がくれた宝物	山本 恭裕 小倉 真弓 吉田 充利 沼田 直勝 高田 智弥 島居 里名	62 63 64 65 66
社会に巣立った卒業生			
就任挨拶	硬式野球部 監督就任挨拶	高柳 秀樹	67

学生活動紹介	千葉商科大学吹奏楽部の活動	鹿野 颯瑛	68
ゼミ紹介	社会課題に取り組み人間社会学部の学生に会計学を学んでほしい！	吉田 正人	69
CUCレポート	■ ニュース・イベント		70
	■ 商経学部の山口晴天さんが公認会計士試験に合格／ほか		77
	■ 国際センターのオンラインプログラム―ヴァーチャルでもつながる―		81
	■ 地域連携推進センターニュース		84
	■ 第11回地域連携フォーラム開催／ほか		86
	■ The University DINING レポート		90
	■ 学生たちがキャンパスに戻ってきました／ほか		92
	■ ライブラリーニュース		93
	■ 教育後援会寄付金による図書購入について／図書館ホームページのリニューアルについて		95
	■ SONEから読者のみなさまへ		98
■ 節約／照明器具編／冷蔵庫の省エネ方法5つ		102	
■ 学生自治会活動・課外活動の紹介		103	
随筆	雑感 疫病とオリンピック	稲葉 真一 師尾 晶子	92
教育後援会活動	教育後援会報告		95
	■ 保護者寄稿		101
	■ 子育て		102
	■ ビンチをチャンスに		103
活躍する卒業生	「事件」の背後に潜むもの―後輩たちへのエール―	石川 邦生 安光 利文 福山 隆夫	103
	■ 本部からの報告		106
	■ 支部からの報告		107
	■ 同期会からの報告		110
同窓会活動	■ 同窓生寄稿		111
	■ コロナ禍における取り組みについて		113
	■ 卒業生のお宿・お店紹介「天ぶら 天すけ」	佐藤 千枝 栗原 延幸	111
CUC経営者会議	CUC経営者会議ニュース		114
著書紹介	CORPORATE SUSTAINABILITY(コーポレート・サステイナビリティ)「パブリックコメントと租税法―政令・通達等に対する手続的統制の研究―」 著者・泉絢也	高橋 浩二 泉 絢也	120

▼第51期同窓会維持会費及び華甲会費納入者一覧 121 ▼同窓会支部事務局一覧 122 ▼編集後記 124

# 同窓会理念の共有

高橋 伸治

● 千葉商科大学同窓会会長  
(昭52商)



昨年から続く新型コロナウイルス感染症拡大の中で、学位記授与式及び入学式が、それぞれ挙行されました。大学側も最大限の安全確保のために、ご家族の皆様には会場ではなく、リモートによる配信で行われました。卒業生、新入生の皆様、ご家族の皆様、あらためまして、誠にとおめでとうございます。

千葉商科大学建学の精神は、「武士道に裏付けられた高い倫理観を持つ実業人の育成にある」と本学の創始者である遠藤隆吉先生は掲げています。私たち同窓会の理念は、「会員相互の交流と親睦を図り、組織及び会員の発展・充実並びに建学の精神に則った千葉商科大学の発展に寄与すること」であります。創立50周年を迎えた私たち同窓会は、この理念のもとに、これからも大学、教育後援会と力を合わせて、社会に旅立つ若者たちの支援と大学の発展に邁進してまいります。

千葉商科大学は教育・研究のバックボーンとして、高

い倫理観の涵養と実学を掲げています。また、実学教育を教育理念としている本学は、新型コロナウイルス感染症拡大の中ではありますが、直接対面しての授業を重視しています。学生の皆様の安全を最大限に考慮しながら、登校してこそ十分な教育効果を期待しています。社会が必要とする大学としての基盤を強化し、社会科学の総合大学としての体制を強化することを願っています。

新型コロナウイルス感染症拡大は、これから先、どのようになるのか、誰にもわかりません。日本国民が楽しみにしているオリンピック・パラリンピック東京大会も開催されるかどうか疑問に思っている人も多いと思います。しかし、時は確実に過ぎていきます。時代はどんどん変化していきます。その新たな流れを的確につかみ、これらの時代に対応できる私たち同窓会になれるよう、大学及び教育後援会の皆様とコミュニケーションしながら頑張つてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

## チャレンジ

### 小倉 真弓

株式会社千葉興業銀行勤務  
令和3年3月 商経学部商学科卒

私は4年間の大学生活で様々なことに挑戦し、成長することができました。千葉商科大学に入学したことで出会えた仲間、そして学んだことはたくさんあります。

私は大学生活を有意義に過ごすため、目標を持って過ごすようにしていました。その目標というのが毎年



2018年9月ゼミ合宿 石川県能登半島にて  
1列目右から2番目が筆者

資格を取得することです。大学生で取得した資格は、日商簿記検定3級と2級、FP3級、宅建、証券外務員です。簿記は大学に入ってから勉強を始めましたが、初心者でもわかりやすく教えて下さりとても感謝しています。

瑞穂会では同じ目標を持つ友人と勉強をして教え合うことで、やる気も上がりました。どれも難しい資格でしたが、頼れる仲間や先生方がいたので合格することができました。このように勉強できる環境があったおかげで自分自身の強みや自信をつけることができました。

そしてゼミでは様々なことを学び、たくさんの仲間と出会うことができました。私の所属していた大塚ゼミは勉強が大変でしたが、大変だから

こそ皆で協力し合うことができました。また、ゼミ合宿はとても貴重な時間で仲を深めることができました。ゼミの友人とは台湾に旅行へ行くほど仲を深めることができました。ゼミ以外でも海外に行く機会が何度かあり、そこで出会った人やそこで得た経験からも多くの刺激を受けました。

この4年間を振り返ると、とても有意義な大学生活だったと思います。新しいことに挑戦することは勇気がいりましたが、貴重な経験をたくさんすることができました。そして良き友人との出会いがあり、たくさんの人に支えられて無事卒業を迎えることができました。コロナ禍での就職活動は困難なことが多かったですが、これまでの大学生活で培った経験を忘れずに、社会人になってからも努力し続け、この先も様々な挑戦をしていきたいと思っています。

# 好奇心からはじまる

吉田 充利

杉本商事株式会社  
令和3年3月 商経学部商学科卒

私にとって大学生活は「やってみる」という気持ちから様々な経験をして学びました。4年間は自由な時間が多く、ある意味で長期の休暇のような時間という認識でした。その期間をどう過ごすかによって、後の自分の姿が大きく変わってくると考えていました。

まず私は簿記検定の資格取得に取



2年次で参加したバンコクビジネス見学ツアー  
右から3人目が筆者

り組みました。普通科の高校出身だったため、簿記に関する知識はゼロからのスタートでした。検定3級を受ける時も瑞穂会に入り、検定2級を取得するときも、同じ教室で学ぶ仲間と比べると知識に差があり、続けるのがしんどく思うこともありました。ただ見方を変えたら気持ちには楽になりました。それは私よりできる、周囲の人に聞きやすい環境で学べていると、気づいた時でした。その気づきにより最後までやり遂げられました。

2年次には海外で暮らしたいという思いから、本学のバンコクビジネス見学ツアーに参加して、海外で働くイメージを膨らませました。

語学の大切さや社会人の準備や振る舞いを自分と比べ、至らなさを痛

感しました。ここでの失敗を経て、社会人になる前の過ごし方を考えるようになりました。

就職活動で初めて合同説明会に参加したのは2年次の冬でした。はやくから考え取り組んでいたため、様々な業界や職種を比較検討することや、自分を見つめなおす時間を多く取れたことでコロナ禍でも自分のペースで活動できたと考えています。

他にも日常の講義やゼミにアルバイト、友人と車で千葉から寄り道をしながら広島へ行ったり、バンジージャンプを試みたり、イタリアへ行ってから自分達の拙い英語を使って宿探しをしたり、サッカー観戦を通してイタリア人とコミュニケーションをとってみたい、4年間で様々なことに挑戦し多くのことを学び経験しました。

社会人になっても好奇心を持ち、挑み続け多くの経験をしていきます。

# 移りゆく世の習いへ

沼沢 智勝

シグマトロン株式会社  
令和3年3月 政策情報学部卒

山形の地を離れて4年、多くの人々と出会うには十分すぎる時間で、勉学に励むには足りなすぎたものです。その間、世間では改元や自然災害など多くの出来事がありました。また、4年生の頃にはSARS-CoV-2の脅威にさらされ、生活が一変しました。大学には学位記授与式の日を



2020年春学期 長尾ゼミオンライン授業(卒業研究)  
上段左が筆者

除いては1度も通うことなく学生生活を終えたことにとっても複雑な心情を抱いています。万事、世の中は絶え間なく移り変わっていくことをより一層意識した1年でした。

パンデミックの最中、この情報過多社会において、何が正しいのかを見極める力が大切だと改めて考えさせられるきっかけとなりました。無数の情報が溢れるこの時代だからこそ、根拠に基づき、正しく判断し行動することを今後も続けていかなければならないと思います。

この4年間を振り返ると、まだまだやり残したことが多くあり、とても悔やまれます。その一方で多様な経験もさせていただきました。小学生にプログラミングを教えたり、CUDAに触れたり、書道展でいくつ

か賞を頂いたり、このような機会を設けてくださった方々には感謝をしています。これらの経験を通して得られたことも多くあり、糧となつて今後にも生かされることでしょう。

また、時には挫折することもありました。特に卒業研究では思うように遅々として進まず、苦悩もしました。そのような時に支えになってくださったのが指導教官である長尾雄行先生や周りの方々、友人です。どんなに時が流れようとも出会った人々との関係は大切にしたいものです。

4月からは社会人として生活していますが、特段心情を変化させることなく、いつまでも学生のように好奇心を持ち続け、勉学に励んでいきたいです。そして、何事も一所懸命に取り組み、常に義・勇・仁を意識し、日に就り月に将んでいく技術のように前に進んでいこうと思う今日この頃です。

## 挑戦の大切さ

高田 直弥

亀有信用金庫  
令和3年3月 人間社会学部卒

私は4年間の大学生活で後悔が残らないよう全力で挑戦しようと決めていました。今までは気になる事があっても一歩を踏み出す勇気が出ずに立ち止まり後悔ばかりの自分から決別する、そんな想いを胸に学生生活を送りました。

活動ではアクティブ・ラーニングやSA(スチューデント・アシスタント)の活動をメインに取り組んできました。自分が所属するゼミ・他のゼミにかかわらず「挑戦したい」という思いで、アクティブ・ラーニングには積極的に取り組みました。最初は、自分の役割が分からずその場で呆然と立ち尽くしてしまい、いつの間にか活動が終わっていた事もありました。その時は悔しい思いと辛い気持ちが入り混じり、もう活動

なんてしたくないという思いでいっぱいでした。しかし、諦めずに回数を重ねていくことで自分の役割がだんだんと見えてくるようになり、自分も一員に加われているのだと実感しました。

また、学業の面では金融機関への就職を目指し勉強をしました。その目標として、2級FP(ファイナンシャル・プランニング技能)資格の取得を掲げました。しかし勉強を始めたところと今まではほとんど触れてこなかった分野の内容であったため最初は戸惑いの連続でした。参考書を買って勉強をしていくも出てくる言葉の意味がよく理解ができず、なかなか自分の身にならず一度は資格の取得を諦めかけてしまいました。しかし、ゼミの伊藤宏一先生の応援や周りの



アクティブ・ラーニングでチーバくんとふなばし健康祭りのイベント会場で

友人の声に励まされ、なんとか2級FPを取得することができました。この結果が私の自信に繋がり、最後には亀有信用金庫から内定を頂くことができました。

この4年間を振り返ると、様々な体験が自分の糧になっていったことがわかります。多様な経験を積むことが出来る千葉商科大学に居たからこそ身についたのだと実感しています。4月から社会人として新しい生活がスタートしました。今までの経験を活かし、これからもいろいろなことに挑戦していきたいです。

# 「経験」がくれた宝物

島居 里名

株式会社  
テクノプロ・コンストラクション  
令和3年3月 国際教養学部卒

「人から聞いた言葉だけで判断するのではなく、実際に自分の目で見て確かめたい。」「何かをやり切ったと言いつける体験をしたい。」そんな思いを抱きながら、私は日々の大学生活を送っていました。

私は国際教養学部で学び、積極的に国際センターを訪ねました。それ



インドでの交換プログラムで  
2019年2月 インド(サー・バダンバット・シンハニア大学内)  
2列目向かって右側が筆者

は私のまだ知らない、見たことのない世界に触れ、実際に学ぶことができるのではないかと思ったからです。

海外フレッシユマンキャンプ、二年次のカナダへの短期留学、そして国際センターの交換プログラムを利用したインドへの短期研修。様々な制度を活用し、私は私が生きてきた世界とは別の世界に足を踏み入れ、そして知らなかった世界を知ることができました。言葉も文化も違う世界で、思わず逃げ出したくなった事も沢山ありましたが、それでも勇気を振り絞って伝えた言葉や気持ち相手に伝わった時の感動は、きっと一生の宝物として私の中で光り輝いてくれると思っています。

私が大学生活の中で得られたものはまだあります。実際に何かをやり遂げるという体験です。私が実現できた事は二つあります。一つは国家

資格の取得、もう一つは自分の手から広報誌を作り上げるという経験です。

国家資格の取得は二次に試験を受け、落ちてしまったのですが、三次にもう一度受けそして合格し「国内旅行業務取扱管理者」の資格を取得することができました。今までは一度ダメだったら諦めてしまいがちでしたが、諦めずに自分に打ち勝つことを経験でき、自分が誇れる経験に繋げることができました。

もう一つは自分たちで発案し入試広報センターに直談判して制作した、女子入学者向けの広報誌「シユシユ」です。この経験は0から1を作り出すことの楽しさと大変さを学ぶことができ、自分でも何かを作り上げることができるのだと自信に繋げることができました。

私はこれから未知の世界へ旅立ちますが、私は私らしく今までやってきた事を胸に次の世界でも頑張っていこうと思います。